

取扱説明書

安全ベルト ロープ・ランヤード 新規格

品番：#7950310000 型式：F-16RW

1. ご使用の前に

- ・本商品は高所作業時の墜落防止に用いる墜落制止用器具です。
- ・本商品は厚生労働大臣が定めた新規格「墜落制止用器具の規格」に適合した胴ベルト型墜落制止用器具です。
- ・本商品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に作業者と事業者の方は、必ず本書をお読みください。
- ・また本書と併せて、厚生労働省が策定した、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」もご確認ください。
- ・作業に合った適切な墜落制止用器具であることをご確認ください。この安全ベルトの種類は〈胴ベルト型〉で、種別は〈第一種〉です。
- ・本商品は、2 m以上の高所作業において、作業床の設置が困難な作業環境や、作業床はあるものの、墜落・転落の恐れのある作業床の端や開口部などに、囲い・手すりなどの設置が困難な作業環境において、作業者の墜落・転落による危険を防止するための胴ベルト型墜落制止用器具です。
- ・本商品を使用される際には特別教育を受講してください。胴ベルト型墜落制止用器具を用いて行う作業に係る業務に従事する作業者は、労働安全衛生規則において、特別教育の受講が義務付けられています。事業者は本商品を使用する作業者に所定の特別教育を受講させてください。

2. 使用高さ・重量の制限

種類：胴ベルト型

種別：第一種

使用可能質量：100 kg

(A) 最大自由落下距離：1.6 m

(B) 落下距離：2.6 m

(a) フック取り付け高さ

(b) D環中心の高さ

(c) ランヤード長さ

(d) ショックアブソーバー、ランヤードの伸び合計

(b-a) 追加落下距離

必要となる作業床の高さ：2.6 m以上

・使用条件における自由落下距離・落下距離

(a) フック取り付け高さ：0.85 m (以上)

(b) D環の高さ：0.95 m

(c) ランヤードの長さ：1.5 m

(d) ショックアブソーバー、ランヤードの伸び合計：1 m

※本商品では、使用条件として (a) フックの取り付け高さを1.1 m (以上)、(b) D環の高さを作業床などからの高さを0.95 mとしています。

※使用条件において、100 kgの重りで落下試験を行った際のショックアブソーバー、ランヤードなどの伸びを1 mとしています。

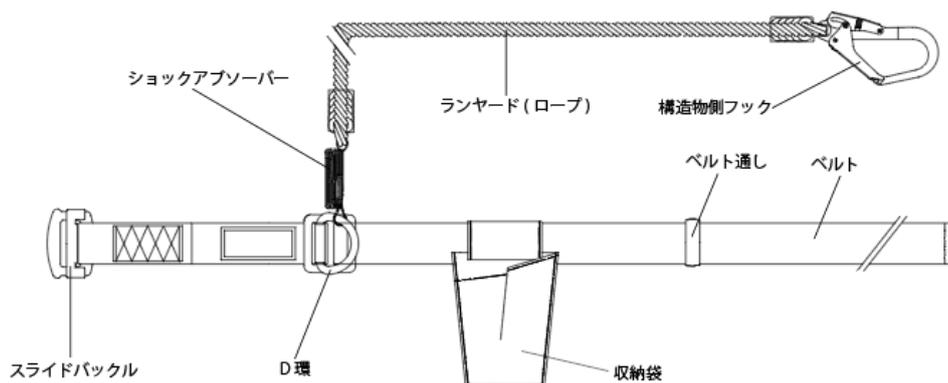
※作業床からフック取り付け高さが1.1 m、落下距離が2.6 m以下の場所でご使用になる場合は、フックを1.1 mより高い位置に掛け替えて使用してください。

※本商品の使用可能質量(体重+装備質)は100 kgです。必ず使用可能質量100 kg(体重+装備質量)以下でご使用ください。作業者の体重と装備品全ての合計質量が、100 kgを超えると、墜落制止時に大きな荷重が加わり重大事故につながる恐れがあります。

※ショックアブソーバーのタグに表示されている最大自由落下距離(1.6 m)は、ショックアブソーバー単体の性能を確認した際の落下距離です。また、フック取り付け高さが0.85 mの条件における落下距離でもあります。

※落下距離は、ご使用時のフック取り付け高さ、ランヤード長さによって異なりますのでご注意ください。フックの取り付け位置が高くなるほど、落下距離は短くなります。

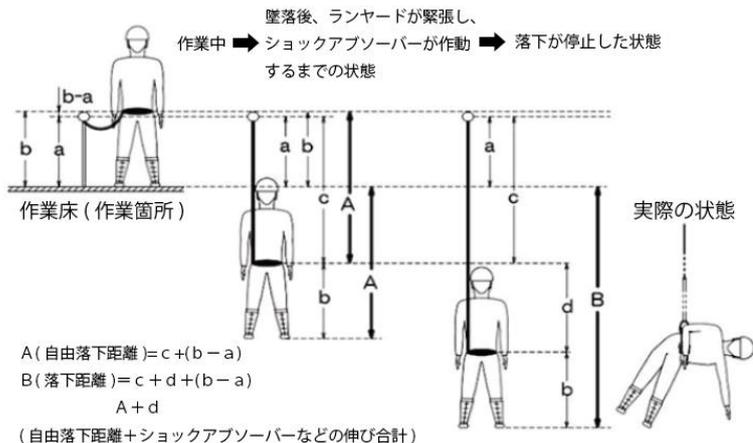
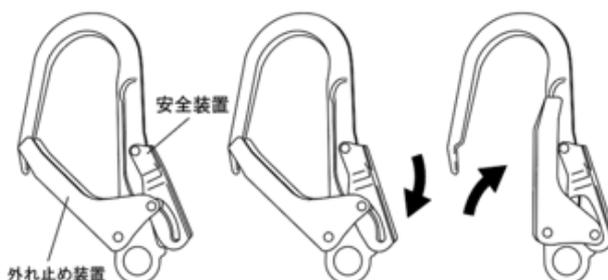
3. 各部名称



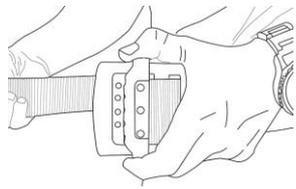
4. 構造物側フックの操作方法

・構造物側フックの操作方法

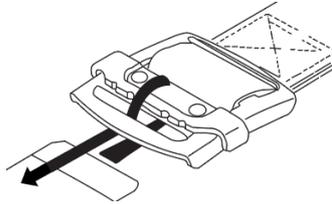
①安全装置を握りながら、外れ止め装置を同時に握ると開口します。



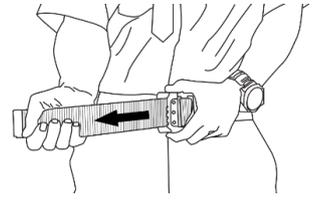
5, 使用方法



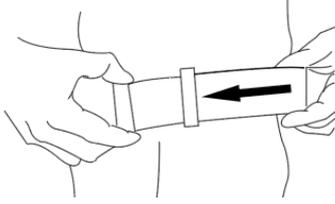
①ベルトを**腰背の位置**に回してください。



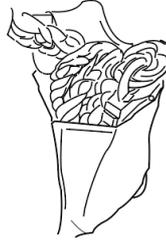
②スライドバックルの裏側にベルトを通し、次に表側に入れて、引張ってください。



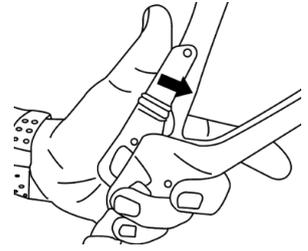
③ベルトが外れない様に、再度確実に引き締めてください。



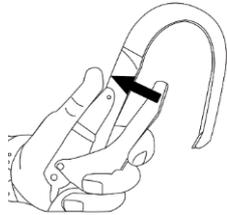
④ベルトをベルト通しに通し、余ったベルトを止めてください。



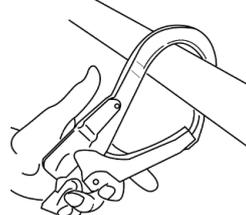
⑤ランヤードを使用しない時は、収納袋に入れてください。



⑥構造物側フックの安全装置を下方に押し込んでください。



⑦外れ止め装置を引いて、**腰より高い位置の強度がある場所**に、引っ掛けてください。



⑧外れ止め装置を閉じ、構造物側フックが確実に閉じている事を確認し、作業を行ってください。

6, 交換の目安 (耐用期間)

- ・使用頻度、使用環境や保管方法などによって異なりますが、使用開始年月から2年を目途に新しい商品と交換してください。なお、耐用期間内であっても後述の〈7, 点検と廃棄の基準〉に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に該当する商品は使用せずに、新しい商品と交換してください。
- ・管理責任者を定めるなどの方法で確実に商品の点検・交換を行い、その内容を管理台帳に記録してください。
- ・本商品を使用する作業者は作業前に必ず始業点検を行ってください。
- ・商品点検後、地上で本商品を装着し、異常がないことを確認してください。
- ・使用する作業者もしくは管理者・責任者は定期点検を必ず1ヶ月ごとに行ってください。
- ・作業中に本商品に異常を感じた際は、直ちに作業を中止してください。
- ・1度でも大きな衝撃を受けた商品の使用は危険ですので、直ちに使用を中止し、再使用しないでください。
- ・ベルト、ランヤードに切れ込み、ほつれ、毛羽立ちなどがある商品、金属バックルが腐食している商品は、直ちに使用を中止してください。

7, 点検と廃棄の基準

点検項目、点検方法及び廃棄基準は、表1による。

表1 点検基準 ◎：最重要点検項目 ○：重要点検項目

点検項目	点検の種類		点検方法	廃棄基準
	始業点検	定期点検		
D環	◎	◎	目視	目視で確認できる程度の大きな変形があるもの 深さ1mm以上の傷、摩滅、亀裂があるもの 全体にさび、または著しい腐食が発生しているもの
	○	◎		
	○	◎		
構造物側フック	◎	◎	目視	変形によって外れ止め装置が完全に開閉しないもの 変形によって安全装置が作動しにくいもの 外周に深さ1mm以上の傷、摩滅、亀裂があるもの フック部の内側に傷があるもの リベットのカシメ部にがたつきや摩耗があるもの 全体にさび、または著しい腐食が発生しているもの
	◎	◎		
	○	◎		
	○	◎		
	○	◎		
	○	◎		
スライドバックル	◎	◎	目視	変形によってスライドバックル同士が完全に結合しないもの 変形によって正しく装着してもベルトが緩むもの 深さ1mm以上の傷、摩滅、亀裂があるもの 全体にさび、または著しい腐食が発生しているもの
	◎	◎		
	○	◎		
	○	◎		
ランヤード(ロープ)	◎	◎	目視	切り傷や摩耗により、7ヤーン以上の切断・摩耗が発生しているもの キンクおよび7ヤーン以上の異常な飛び出し、型崩れが発生しているもの 火花や熱により7ヤーン以上の燃焼・溶融が発生しているもの さつま編み部が、緩んでいるものや抜けているもの
	◎	◎		
	◎	◎		
	◎	◎		
ベルト	◎	◎	目視	薬品が付着したもの、また、薬品によって変色、硬化、溶解箇所があるもの 塗料などが著しく付着して硬化、変色しているもの 縫製部にゆるみやほつれがあるものや、縫糸が1ヶ所以上破断しているもの 縫糸が切断して、ベルトの剥離が少しでも認められるもの 目立った切り傷、擦り傷、引っ掛け傷、摩耗などが認められるもの
	◎	◎		
	◎	◎		
	◎	◎		
	◎	◎		

ショック アブソー バー	◎	◎	目視	カバーが破れて中のベルトが露出しているもの
	◎	◎		両端のベルトが著しく摩耗しているものや傷があるもの
	◎	◎		大きな衝撃荷重を受け作動したもの
	◎	◎		薬品が付着したもの、また、薬品によって変色・硬化、溶解箇所があるもの
	◎	◎		縫製部にゆるみやほつれがあるものや、縫糸が1ヶ所以上破断しているもの
	◎	◎		塗料などが著しく付着して硬化、変色しているもの
	○	◎		タグに記載の内容が確認できないもの
ベルト 通し	○	◎	目視	各部よりベルト通しが脱落しているもの
	○	◎		1mm以上の傷、摩滅、亀裂があるもの
使用期間	—	◎	管理台帳、表示等の確認	使用開始から2年以上を経過している場合

8, 注意事項

△危険 (この警告文に従わなかった場合、死亡、又は重傷を負うことになるもの。)	
①	高所作業者の 墜落制止以外の目的・用途 では使用しないでください。
②	ベルトの締め方が緩いと、身体が抜け落ちる恐れがあります。必ず、 ベルトを確実に締めて ください。
③	ランヤードが 首の前にある状態や脇・股に挟み込まれた状態で作業をしない でください。墜落制止時にランヤードが身体に絡まり、死亡または身体に重大な影響を及ぼす恐れがあります。
④	墜落時にランヤードの構造物側フックが滑り落ちるような箇所に取り付けない でください。墜落制止時に滑り落ちた構造物側フックが、破損する恐れがあります。また、構造物側フックが滑り落ちることによって、落下距離が長くなり、衝撃荷重が大きくなって身体に損傷を及ぼす恐れがあります。
⑤	ランヤードの構造物側フックを足元などの腰より低い位置に掛けての使用はしない でください。墜落時の衝撃荷重が大きくなり、身体に重大な影響を及ぼす恐れがあります。
⑥	ランヤードの構造物側フックは 墜落制止時に地面に衝突しない高さの構造物に取り付け てください。墜落制止時には、ショックアブソーバーが作動し伸びますので、構造物側フックの取り付け位置が低いと、身体が地面や下方の障害物に衝突し、身体に損傷を及ぼす恐れがあります。
⑦	ランヤードの構造物側フックは墜落時に身体が大きく振られて障害物に衝突しない位置に取り付けて ください。墜落制止時に障害物に衝突して、身体に損傷を及ぼす恐れがあります。
⑧	本商品の 使用可能質量(体重+装備質量)は100kg です。必ず使用可能質量100kg(体重+装備質量)以下でご使用ください。作業者の体重と装備品全ての合計質量が、100kgを超えると、墜落制止時に大きな荷重が加わり重大事故になる恐れがあります。

△警告 (この警告文に従わなかった場合、死亡、又は重傷を負う危険性のあるもの。)	
①	ベルトやランヤードに 酸やアルカリを付着させない でください。酸やアルカリでベルトやランヤードが溶解して強度が低下し、十分な強度が得られず、墜落制止できない恐れがあります。
②	高温の物体に近づけない でください。合成繊維は、熱によって熔融して強度が低下し、十分な強度が得られず、墜落制止できない恐れがあります。
③	ベルトやランヤードに屈曲やしごき加わるような使用はしない でください。過度の屈曲やしごきが繰り返されると、ベルトやランヤードが摩耗し、破断を引き起こす恐れがあります。
④	垂直・水平親綱の1スパンを使用する作業者は1名としてください。墜落制止時に他の作業者が引き寄せられ、同時に落下する恐れがあります。
⑤	ベルトやランヤードに体重をかけない でください。体重をかけるとベルトおよびランヤードが損傷して強度が低下する恐れがあります。また、バランスをくずして墜落する恐れもあります。
⑥	1度でも大きな衝撃を受けた商品の使用は危険ですので、直ちに使用を中止し、再使用しないでください。
⑦	人と人とをベルトで繋いでの使用はしない でください。
⑧	本商品の 分解、修理、改造はしない でください。また、使用中に 異常を感じた場合は、直ちに使用を中止 してください。
⑨	本商品に 変形、破損箇所、摩耗、錆、退色、塗料付着による硬化などがある場合は、直ちに使用を中止 してください。

△注意 (この警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるもの、又、商品に重大な破損を招く恐れのあるもの。)	
①	必ず、始業点検を実施してください。
②	本商品の取扱いは丁寧に行ってください。異物が組立部品の内部に付着すると、部品が破損や変形し、作動不良を起こす恐れがあります。
③	本商品を 屋外に放置しない でください。ベルトやランヤードの合成繊維は、紫外線によって強度が低下する恐れがあります。
④	本商品を保管する際には、直射日光や火気、高温多湿な場所を避け、風通しの良い屋内に保管してください。
⑤	高温(50℃以上)になる場所に長時間保管しないでください。
⑥	本商品を保管する際には、 小さなお子様手の届かない場所に保管 してください。
⑦	使用しない期間が続いた場合でも定期的に点検を行い、充分な手入れを行ってください。
⑧	ベルトやランヤードなどの 縫い糸にほつれがある場合は、使用しない でください。
⑨	強風時や、荒天時は危険ですので使用しないでください。
⑩	本商品を 異なるメーカーのランヤードや部品と組み合わせで使用しない でください。
⑪	本商品を重量物の下敷きにして、傷や変形が起こらないように注意してください。
⑫	雨に濡れたベルトやランヤードは、非常に電気を通しやすくなりますので、 感電に注意 してください。
⑬	構造物側フックなどの金属部品が濡れた場合には、その液体をよく拭き取ってください。
⑭	本商品に付着した泥・砂・埃などは取り除いてください。また、構造物側フックの可動部には定期的に注油を行ってください。
⑮	ベルトなどの合成繊維部品が汚れている場合は、水を含ませた布などで軽く叩いて、汚れを布に移してください。その後、直射日光の当たらない風通しのよい場所に陰干しし、自然乾燥させてください。

